

【医療機関用】 BCG個別接種開始にかかる Q&A

個別接種の開始について		
No	Q	A
1	個別接種はいつから開始されるのですか？	令和3年10月1日より委託医療機関において個別接種を開始します。
2	いつまで個別接種と集団接種の併用となりますか？	将来的な個別接種への完全移行に向けて、当面の間、併用実施としますが、個別接種と集団接種の状況を踏まえ、検証を重ねていきます。
3	どこで接種できますか？	大阪市内の委託医療機関、各区保健福祉センターで接種できます。 委託医療機関一覧は大阪市ホームページに令和3年9月から順次掲載します。
4	委託医療機関として登録できる条件は何ですか？	<p>本市が行う研修会を受講した医療機関は「予防接種実施医療機関等変更届」を、新規で登録する医療機関は予防接種実施確認書等の提出を必須条件としています。</p> <p>また研修受講対象となる医療機関としては以下の条件と、原則としてBCGの標準的な接種対象者である生後5か月に達した時から生後8か月に達するまでの乳児の診療経験があることを条件としています。</p> <p>【BCG個別接種を実施する医療機関が満たすことが望ましい条件】</p> <p>①一般外来から、時間的または空間的に独立した「予防接種外来」の設置 ②BCG接種後、乾燥するまで待機可能なこと ③接種後の通常の経過、副反応、コッホ現象を保護者に説明でき、発生時の対応ができること ④接種対象児が毎月2～3人以上いて、接種経験が蓄積できること ⑤研修会等に継続して参加し、研鑽に励むこと</p>
5	委託医療機関の登録をしたいが、どうすればいいですか？	新規の登録については、予防接種実施確認書等の必要書類を管轄の保健福祉センターへ提出してください。詳しくは大阪市保健所感染症対策課（06-6647-0953）へお問い合わせください。
6	個別接種について市民への周知方法は？	大阪市ホームページ、大阪市広報紙で周知済です。また母子健康手帳交付時、予防接種番号通知、3か月児健康診査、健康相談や健康教育の機会を捉えてリーフレットや予防接種スケジュール表、ポスターを活用し周知を行っております。
7	BCG接種日を設定する際に、注意することは何ですか？	コッホ現象に適切に対応できるように、大型連休の前、年末年始の前などには接種日を設けないようご注意ください。
8	個別接種開始後の予診票の取り扱いはどうなりますか？	<p>現行の予診票を使用します。</p> <p>予診票の「この予防接種は保健福祉センターで行います」の記載を「この予防接種は委託医療機関または保健福祉センターで実施します」と読み替え、接種日を主票と副票の二か所に記入してください。</p> <p>令和4年度からの母子健康手帳交付時に新しい予防接種手帳を配付する予定です。</p>
9	集団接種の見学をしたいがどこに相談すればいいか？	大阪市保健所感染症対策課（06-6647-0953）へお問い合わせください。

BCGワクチン全般について

No	Q	A
10	BCGワクチン接種による結核の予防効果は？	結核の発症を52～74%、小児における重篤な髄膜炎や全身性の結核の発症を64～78%予防します。また、その効果は少なくとも10～15年程度続くと考えられています。
11	効果が出てくるまでの期間は？	BCG接種後、1か月後には免疫ができていると考えられています。
12	BCGと他の薬剤との相互作用は？	副腎皮質ステロイドと免疫抑制剤（シクロスポリン製剤等）を全身投与（内服や注射）している時は、BCG接種はできません。これらの薬剤を大量あるいは長期間使用したときには、薬剤中止後6か月程度たってからの接種となります。なお、ステロイド外用剤のみ使用している場合は接種場所に湿疹等がなければBCG接種ができますが、接種部位への使用は前日までです。
13	BCGワクチン及び溶剤にアナフィラキシーの原因となるようなゼラチンや鶏卵由来成分などは含まれているのですか？	BCGワクチンにはゼラチンや鶏卵由来の成分は入っていません。ただしグルタミン酸ナトリウムを含んでいますので、この成分にアナフィラキシーを呈したことがある方には接種できません。
14	懸濁液を作る際の注意点は？	アンプル開口の際に使用したアルコールが微量でもアンプル内に入ると、BCGが凝集し懸濁できなくなりますので、アルコールが十分乾燥してから開口します。アルコールが混入した場合、そのアンプルを使用することはできません。また、懸濁後は力価の低下や雑菌の迷入を防ぐためすぐに使い切り、直射日光に当たらないように注意します。目安として2時間以内に使用してください。

定期接種対象者について

No	Q	A
15	定期接種対象者とは？ 1歳の誕生日以降に特例で定期接種の対象となる場合がありますか？	生後1歳に達するまで（1歳の誕生日の前日まで）が定期接種の対象で、標準的な接種期間は、生後5か月に達した時から8か月に達するまでです。 ただし、長期にわたり療養を必要とする疾病にかかった等の特別な事情により、定期の予防接種の機会を逸したと認められる者に対しては、特別な事情がなくなってから2年（ただし、4歳の誕生日前日）まで定期の予防接種の対象となります。 また新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、平成31年4月2日から令和2年10月1日生まれの方は、2歳の誕生日前日まで接種期間を延長しています。これらの対象者は事前にツベルクリン反応検査を行うため、定期接種は保健福祉センターで行います。 手続き等詳細については、保健福祉センターへお問い合わせください。
16	生後5か月に達した時から8か月に達するまでを標準的な接種期間とするのはなぜか？	出生直後は先天性免疫不全症を有するかどうかの判断が困難であること、また接種後の骨炎、骨髄炎の副反応発生がごくまれに（年間接種数100万人に対して4人程度）あり、生後早期のBCG接種との関係が否定できないことから、国が標準的な接種期間を生後5か月に達した時から8か月に達するまでと定めています。 なお、法律上、BCGは出生直後から生後1歳に達するまで（1歳の誕生日の前日まで）は、定期接種可能であり予防接種法に基づく定期の予防接種による健康被害救済制度が適用されます。

17	結核の治療を行った児は定期接種の対象となりますか？	結核にすでに感染していることが分かっている場合には定期接種の対象にはなりません。 ただし、BCG接種歴のない場合、感染診断が陰性であった場合でもウインドウ期を考慮して治療を行う場合があります。この場合、治療開始後3か月後をめやすに感染診断を再度行い、陽転していればそのまま治療を継続、陰性であれば治療を終了しBCG接種を勧めます。接触状況によっては治療完了後にツ反を実施し、陰性ならBCGを行う場合もあります。この場合は生後1歳に達するまでであれば定期接種として実施できます。
18	ステロイド外用剤を塗布している児への対応は？	ステロイド外用剤はワクチン効果を失わせるためBCG接種部位（上腕外側）への使用は前日までとしてください。 なお、接種後は接種部位を避ければ使用することができます。
19	副腎皮質ステロイドを使用中にBCG接種はできますか？	副腎皮質ステロイドは免疫抑制作用があるため、内服や注射の使用中は接種を避けてください。また、大量あるいは長期間使用（2週間以上）した時には薬剤の中止後6か月程度経ってから接種してください。ただし、ステロイド外用剤の局所的な使用、吸入薬、点眼薬、点鼻薬の場合は全身的な免疫に影響を与えていなければ接種可能です。
20	アトピー性皮膚炎に罹患している小児へのBCG接種はできますか？	BCGワクチンの接種部位がジクジクしているような場合は、皮膚の状態がよくなるまで接種を控えて下さい。ステロイド外用剤で治療を行っている場合は、皮膚の状態がよくなり、使用を中止してから接種を行います。ただし、広範囲・長期にわたる使用により全身性免疫抑制状態にあると判断されるような場合は接種を見合わせます。なお、接種後は接種部位を避ければステロイド剤を使用することができます。
21	予診票 3.「生まれてから今までに家族など身のまわりに結核にかかった人がいましたか」が「はい」の場合の対応は？	接種の可否については保健福祉センターで判断します。 事前に保健福祉センターより接種可能の連絡や、母子健康手帳へ接種可能と記載している場合は接種を行ってください。ただし、連絡や母子健康手帳に記載がなく判断できない場合は当日の接種を行わず、保護者へ対象児居住区の保健福祉センターへ相談するようお願いください。
22	上記対応(Q21)の保護者への事前周知は？	予防接種番号の通知文書や3か月児健康診査時に配布するリーフレット等で、事前に保健福祉センターへ相談するよう周知しています。
23	新型コロナの影響で接種見送りをした1歳を超えた児への対応は？	Q15参照。
接種・接種後について		
	Q	A
24	接種した部位から出血している場合の対応は？	針痕部分の血を拭き取るなどせずに自然乾燥させてください。
25	接種の間違いや擦過傷を起こしてしまった場合の対応は？	接種の間違いや擦過傷が生じた場合は、医療機関を管轄する保健福祉センターへ報告が必要となります（他の予防接種の間違いと同様）。 擦過傷を起こした場合は、直ちに保護者へ今後の経過（BCG接種後の経過と同様に、腫脹などの強い反応が見られるが、徐々に軽快し癒痕化してくることが多い）を懇切丁寧に説明し、経過観察を行うことが必要となります。なお、擦過傷が発生した場合でも定期接種として請求可能です。

26	決められた接種部位と違う部位に打ってほしいと要望があった場合の対応は？	予防接種実施規則第16条で「上腕外側のほぼ中央部」と定められていますので、他の部位への接種は法的に認められていないことをご説明ください。特に肩近くや肩部への接種はケロイドが生じやすいので絶対に避ける必要があります。
27	副反応とその対応は？	接種局所の反応が強く、複数の針痕が融合したり、浸潤やびらん面を形成することがありますが、局所の清潔を保てば早晩解決します。しかし、このような局所の変化が3か月過ぎても治癒しない、あるいはいったん癒痕化したのちに再度炎症反応を示すことが稀にあり、この場合は一般抗生剤の内服や塗布が有効です。 接種後1か月前後から接種側の腋窩リンパ節が増大することがありますが、数か月の経過で徐々に縮小していきます。 皮膚結核病変も一定の頻度で見られますが自然軽快することが多いです。 接種後数か月～1年程度で発症する骨炎や全身性播種性BCG感染症、アナフィラキシーなどの重大な副反応の報告は稀です。重大な副反応については専門医の診断治療が必要となります。
28	針痕が少ない場合に保護者が再接種を希望した場合の対応は？	個々の被接種者において、針痕数が接種後の免疫能と相関するとは限らないため、個々の被接種者について針痕数からその人の接種効果を云々することはかなり不確実でありあまり意味がないこと、また再接種により有害事象が増加する可能性があり、針痕が少ないことを理由に再接種を行うことは普通は勧められないことを説明してください。
29	定期接種で健康被害が疑われる場合、どうすればいいですか？	定期の予防接種による健康被害が疑われる場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定した時は救済給付が行われます。 なお、予防接種健康被害救済制度の申請に関するお問い合わせは、居住区の保健福祉センターになります。
コッホ現象（疑い）への対応について		
No	Q	A
30	コッホ現象疑いの場合の対応は？	接種した医療機関（集団接種の場合は対象児居住区の保健福祉センター）が対応（問診・Gradeの判定・ツベルクリン反応検査、胸部エックス線検査等の結核に関する検査）します。 なお、ツベルクリン反応検査はBCG接種後遅くとも2週間以内（1週間以内が望ましい）に行います。 またコッホ現象が強く疑われる児の同居家族等に対して、胸部エックス線検査等の接触者健診を実施します。 結核の発病や感染が判明した場合には治療を行います。 なお、ツベルクリン反応検査を実施した場合は「コッホ現象事例報告書」を対象児居住区の保健福祉センターへ提出してください。
31	自院でコッホ疑い（ツベルクリン反応検査の実施）に対応できない場合の対応は？	病診連携のうえツベルクリン反応検査を行う医療機関へ紹介してください。紹介状には「いつ、どの状態で」コッホ現象を疑ったか、「Grade分類」を必ず記載してください。 ただし、ツベルクリン反応検査を行う医療機関との日程調整がうまくいかない等の事情がある場合は保健福祉センターへ相談してください。